

正規・非正規雇用と国際貿易：日本企業の事業所レベルデータの分析

松浦寿幸（慶応義塾大学産業研究所）

佐藤仁志（経済産業研究所）

若杉隆平（京都大学経済研究所、経済産業研究所）

要 旨

1990年代以降、日本の労働市場において雇用の非正規化が急速に拡大した。この傾向は、近年、海外売上げに一層依存するようになった製造業において顕著であった。本論文は、企業が複数の製品を生産することが売上げ変動の平準化に資するとすれば、グローバル競争が製造業の雇用の非正規化を進める可能性がある理論モデルを示した。雇用に調整コストがある場合、企業はその節約のため、より安定的な売上げを好むであろう。貿易の自由化は、競争を通じて企業により少ない製品への生産の集中を促す効果があり、このことは企業の売上げ変動を増加させるので、企業は調整費用のかからない非正規労働者への需要を増やすであろう。

本論文は、日本企業の事業所レベルのデータを用いて実証分析を行い、この理論モデルの示唆が以下のように一定程度裏付けられることを明らかにした。

- ・ 輸出シェアの低い企業では、生産品目を拡大させる企業も少なくないが、輸出シェアが 50% を超えてくると、むしろ生産品目を減少させる傾向にある。
- ・ 生産品目の減少は、出荷額成長率の変動を拡大させる。この結果は、グローバル化の進展している機械関連製造業でより顕著である。
- ・ 出荷額成長率の変動を拡大させている企業は、非正規雇用を増加させている。

実証分析の結果概要

	(1)	(2)	(3)
独立変数\従属変数	製品数	出荷額成長率 の変動	非正規従業員 比率
製品数		-0.0009	
		[-2.78]***	
出荷額成長率の変動			0.016
			[4.46]***
輸出シェアダミー (0% < exp_share <= 25%)	0.0577 [6.29]***		
輸出シェアダミー (25% < exp_share <= 50%)	0.0397 [2.46]**		
輸出シェアダミー (50% < exp_share <= 75%)	-0.0501 [-2.12]**		
輸出シェアダミー (75% < exp_share)	-0.0731 [-1.92]*		
年次ダミー	あり	あり	あり
コントロール変数	あり	あり	あり
決定係数	0.0182	0.0118	0.0494
標本数	166275	166275	166275

注意

1) カッコ内は t 値。

2) **,*,*は、それぞれ係数が 1%, 5%, 10%水準で統計的に有意であることを示す。

3) いずれも固定効果モデルによる推定。